

総務省地域情報化アドバイザー 優良事業事例

熊本県あさぎり町

支援分野：AI活用、生成AI

派遣対応年度：令和5年度

地域情報化アドバイザー名：大山 水帆 氏

派遣回数：計4回（オンライン）

支援形態：講演、支援・助言

基礎情報

■人口：14,084名（令和6年12月時点）

■面積：159.56平方キロメートル

■主な産業：農業、林業、製造業



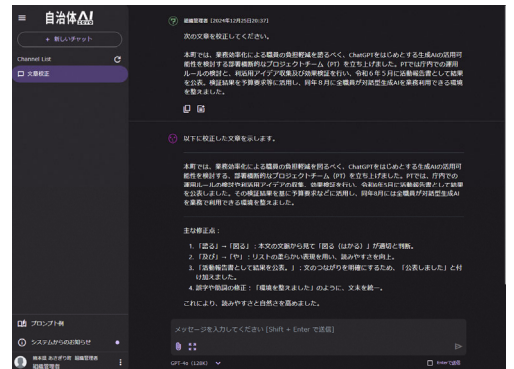
優良事業概要

- **事業名** ChatGPT等の生成AI活用検討プロジェクトチーム
- **事業の概要**

本町では、業務効率化による職員の負担軽減を図るべく、ChatGPTをはじめとする生成AIの活用可能性を検討する部署横断的なプロジェクトチーム（PT）を立ち上げました。PTでは庁内での運用ルールの検討と、利活用のアイデア収集及び効果検証を行い、令和6年5月に活動報告書として結果を公表しました。検証結果を予算要求等に活用し、同年8月に全職員が対話型生成AIを業務利用できる環境を整えました。

- **アドバイザーへの依頼内容**

- ・自治体における生成AI活用についての講演
- ・PTの活動を推進するために、以下の事項に関する情報提供
 - 業務利用に適した生成AI
 - 生成AIの利用に伴うリスクと対策
 - PT内で試行的に利用する際の調整事項、運用体制



導入した「自治体AI zevo」の操作画面

地域情報化アドバイザーから受けた支援内容

先進的に生成AIの活用を行っている埼玉県戸田市のデジタル戦略室長の大山水帆アドバイザーより、生成AIの導入に向けたPTの活動内容のご提案から、成果報告書の作成支援に至るまで、文字どおり徹頭徹尾ご支援をいただきました。先行自治体での実例を伺いながら検討を進めることができたため、迅速に運用ルール整備や庁内実証を行うことができました。



プロジェクトチームで大山氏の講演を聴講

- ・第2回PT会合（R5.11.30）：生成AIの概要や戸田市での導入事例を講演形式でご説明
- ・第3回PT会合（R5.12.18）：庁内での利用ルールの草案と、庁内実証の実施体制のご提案
- ・第4回PT会合（R6.2.7）：実証の経過を踏まえたPT活動報告書の骨子のご提案
- ・第5回PT会合（R6.3.1）：PT活動報告書（案）への助言

支援を受けた事業の最新状況

● 導入直後：職員への普及・浸透

PT活動の結果を活用し、円滑に導入することはできたものの、導入直後は通知やマニュアル・事例集の配布だけでは全く普及せず、

- 使用人数は全職員225名中40名程度
- 利用文字数は上限値の30%以下
- 一部の職員だけが集中的に使用しており、上位5名の利用者が利用文字数の半分を使用

という状況でした。

また、個人情報を入力といった運用ルール違反は生じなかったものの、キーワードの単純列挙や背景情報の入力不足しているなど、プロンプトの精度についても個人差が大きいことがわかりました。

● 利活用促進の取組

毎週1回、庁内での効果的な生成AI活用事例を、実際のプロンプトや使用者へのインタビューとともに紹介する広報ビュウを配布しています。また、他課に作業依頼を出す際に合わせてプロンプトのテンプレートを配布する、議会時期に答弁のたたき台を作成する方法を周知する等、実際の使用につながるよう周知活動を行っています。加えて、対面での研修会の実施を契機にアクティブユーザーが拡大し、12月の利用文字数の合計は9月の2倍に増加しました。

● 今後の展望

一部の職員に使用が集中している状況は未だに解消しておらず、また、自身の業務では活用の余地はないという固定観念を持っている職員も少なくないため、生成AIを活用できるチャンスを見逃さず、自ら業務改善を図る意識づけを引き続き行っていきます。

また、あらかじめ町の基本情報や総合計画を登録しておくことでより正確な回答を生成させる機能の導入も計画しています。

▼ 庁内の効果的な活用事例を毎週紹介

あさぎり町にもついに導入された「Chat-GPT」。庁内の活用事例を毎週一つピックアップして、プロンプトと一緒にご紹介いたします！

今週の活用事例：照会への回答を作成させる。

あなたは、町職です。厚労省からの障害福祉サービスに関するアンケート調査の次の問いに対する回答を考えてください。回答は200文字以内でお願いします。
なお、居宅介護の現状として、マンパワー不足があり希望する時間帯に利用できないことがあります。

介護給付費にかかる支給決定事務について貴自治体が抱える運用課題があれば記載ください。

当自治体は、介護給付費の支給決定事務において、マンパワー不足が主な課題です。
これにより、決定までの時間が長引き、利用者が希望する時間帯に居宅介護サービスを提供できないケースが増加しています。
また、事務手続きの煩雑さとシステムの老朽化も効率的な運用を妨げています。柔軟な勤務体制の導入や、システムの改善が急務です。

プロンプト作成のコツ！

- ・盛り込んでほしい内容
- ・考慮してほしい情報

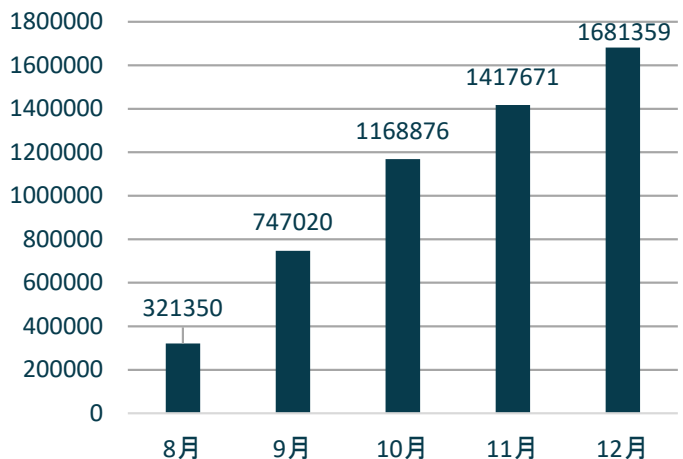
を明記して、生成させる文章をイメージに近づける！

今週のプロンプト作成者
生活福祉課 土肥幸代主幹

Q:生成AIが便利に感じる場面は？
土肥主幹：
思っていることをうまく文書化できないときに、キーワードを選択することで形にしてくれるのがありがたいです。

Q:質問時に意識していることは？
土肥主幹：
指定をしないと際限なく回答を生成されるため、「200文字以内で」など、出力形式を指示するようにしています。

▼ 令和6年8月導入時からの利用文字数の推移



地域情報化アドバイザー派遣制度を知るきっかけ

公設民営光ファイバー網の民間譲渡を検討する際に初めて地域情報化アドバイザー派遣制度を使用し、ご支援をいただいたことで明確な方針を立てることができました。以降、町で新規のDX施策を行う際には、まずは地域情報化アドバイザー派遣制度の利用可能性を考えるようにしています。

支援を受けた事業が成果につながった要因

● 検討初期の段階で派遣制度を利用した点

一部の先進自治体においては生成AIの特徴的な利活用が行われているという情報は入手していたものの、本町に合った活用方法は何か、導入するためにはどのような準備が必要なのか、あまり見当がつかない状況でした。この点、PTの発足から速やかにアドバイザーの派遣を受けたことで、職員が利用する対話型生成AIの導入に目標を定め、また、導入に向けたPTの活動方針を決めることができたため、手探りで情報収集や計画を立てる事態を避けられました。

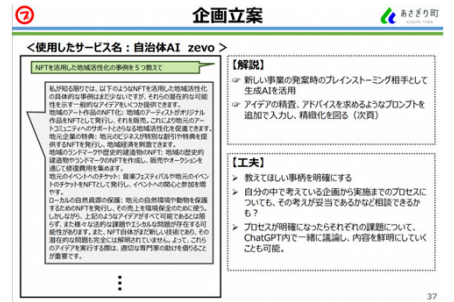
● 先行自治体の担当者から、実例を基に支援をいただけた点

実際に自治体での生成AI利用の環境整備を行った経験のあるアドバイザーから支援を受けることができたため、導入までの全体像や予想される課題の具体的なイメージを早期に持てました。また、戸田市における運用ルールについて説明を受け、本町におけるルール検討の際の参考とすることができたため、PT発足から約2ヶ月で庁内実証を開始することができました。

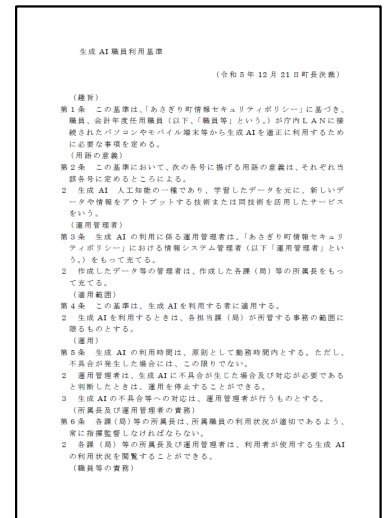
加えて、先行事例を参考にしていることが、幹部等への説明の補強材料になったと感じています。

● 成果物のやり取りのなかで助言をいただけた点

PT会合にご同席いただく際の口頭でのやり取りだけでなく、運用ルールの案や庁内実証の結果、PT活動報告書の案などの文書を提案・確認するプロセスを通して助言をいただいたことで、効率的に議論を深めることができました。



実証時の活用事例報告様式。そのまま結合することで事例集を作成した。



業務利用におけるルールとして生成AI職員利用基準を策定。

支援をしたアドバイザーが考える成果の要因

単にアドバイスを行うだけでなく、初期段階よりPTに参加し、PTの進め方や報告書作成支援を行うことで、最終的にあさぎり町「ChatGPT等の生成AI活用検討PT」活動報告書を取りまとめ、公表することができました。

また、実際にPTメンバーの職員の方に生成AIを実際に体験いただくことで、使い方やメリットを実感できたのではないかと思います。

今回は導入時の支援でしたが、導入後も職員向けの研修を行うなど、町が継続して生成AIを活用できるよう支援できればなお効果的であったのではないかと思います。

地域情報化アドバイザー派遣制度に関する評価・感想

幅広い知見を持ったアドバイザーから助言を受けられるため、新しい取組であっても計画的に、かつ、自信を持って進めることができる制度だと感じています。また、専門家との人脈形成につながることで、単一の事業に限られないメリットも享受できています。本制度を今後も積極的に活用し、地域DXを加速させていきたいと考えています。